

文部科学省選定

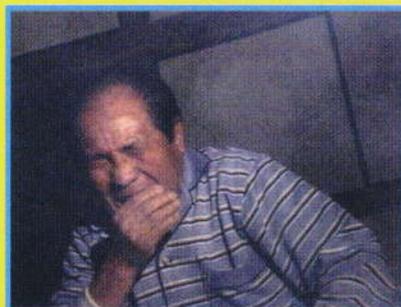
火災から命を守る 8つのポイント 3つの習慣 5つの対策



住宅防火のポイント

命を守る 3つの習慣

命を守る 5つの対策



企画意図

全国各地で火災が発生し、多くの命や財産が奪われています。建物火災の中で最も多いのが住宅火災。住宅火災から命を守るには、どうすればよいのか——そのポイントを次の3つの習慣、5つの対策にまとめてみました。

住宅防火・8つのポイント

● 3つの習慣

- ・寝たばこはやめる
- ・燃えやすいものの近くではストーブを使用しない
- ・ガスコンロなどのそばを離れるときは必ず火を消す

● 5つの対策

- ・住宅用火災警報器を設置する
- ・寝具・衣類及びカーテンは防災品を使用
- ・住宅用消火器等を設置する
- ・隣近所に協力体制をつくる
- ・放火に注意

以上の8つのポイントについて、実際の火災事例、専門家のアドバイス、火災実験映像などを捉えながら、一つ一つ、わかりやすく解説していきます。

作品概要

■住宅火災の恐ろしさ

全国各地で毎日のように発生する住宅火災。住宅火災から命を守るには、3つの習慣、5つの対策が重要だ。その8つのポイントを一つ一つ検証する。

【3つの習慣】1. 寝たばこはやめる

住宅火災の出火原因で常に上位を占める、たばこ。その中でも特に危険なのが「寝たばこ」で、深夜から朝方にかけて発生し、寝入ったまま逃げ遅れて命を落とすケースも多い。ここでは実験映像で危険を再認識し、寝たばこは絶対やめようと訴える。

2. 燃えやすいものの近くではストーブを使用しない
ストーブで多く起こる火災事例の再現映像や、電気ストーブによる実験映像を示し、上に洗濯ものを干さない、燃えやすいものを近くに置かない、寝るときは必ず消す、などの注意を喚起する。

3. ガスコンロなどのそばを離れる時は必ず火を消す
てんぷら油の加熱で火災になる実験映像——過熱を続けると360度以上で口火がなくても自然に発火する。たとえわずかな時間でも、コンロから離れる時は、必ず火を消す習慣をつけよう。コンロ周辺に燃えやすいものを置かないことも重要だ。

【5つの対策】1. 住宅用火災警報器を設置する
住宅火災で亡くなった人の、およそ6割が、火災の発見の遅れなどが原因の「逃げ遅れ」。そして逃げ遅れる原因の一つは煙だ。ここでは煙の特性である、視界をふさぐ、有毒ガスが含まれている、など…実験映像や専門家の話などで語る。そして火災の発生をいち早く知らせる住宅用火災警報器の重要性を訴える。火災警報器の種類や設置の際の注意点などを詳しく解説する。

2. 寝具・衣類・カーテンは防災品を使用する
万一、出火した場合でも延焼を食い止めることができれば被害を最小限にできる。寝具・衣類・カーテンなどの非防災品と防災品の燃焼実験などを捉

え、防災製品を使う重要性を訴える。

3. 住宅用消火器等を設置する

火災の延焼実験の様子を捉え、初期消火の重要性を訴える。初期消火に役立つのが住宅用消火器。ここでは設置場所、基本的な使い方、日頃から防災訓練で使う練習をすることが重要と強調する。

4. お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる

高齢者が犠牲になった悲惨な火災現場。火災の犠牲になりやすい高齢者や身体の不自由な人には地域ぐるみの取り組みが重要となる。こういった取り組みを積極的に進めている地域を取材する。

5. 放火に注意

出火原因の第一位を占める放火。ここでは放火されやすい場所、条件を示す。そして家の周囲に新聞・雑誌など燃えやすいものを置かない、ゴミは収集日の朝に出す、夜間照明で家の周りを明るくしたり、人の動きを感知して点灯する防犯照明を設置すると効果的、など放火対策を解説する。

- 監修：東京理科大学総合研究機構 教授
工学博士 菅原 進一
- 協力：横須賀市消防局
横須賀市衣笠地区本公郷町内会
日本市民安全学会
東京消防庁
- 企画・制作統括：高木 裕己
脚 本・演 出：川崎 けい子
- 制作・著作：株式会社 映学社

■VHS・DVD[カラー・19分]

ライブラリー価格 **¥65,000** (本体価格)

・2013年・映学社作品